



## 精密部品加工と心

村上 宏\*

### 1. まえがき

朝8時、威勢良い就業のベルが鳴り響き、カナン精機の日が始まる。

朝の挨拶に始まり、讃美歌を歌い、聖書の一節を斉唱する。

「愛は寛容にして慈悲あり

愛はねたまず 愛は誇らず 高ぶらず

非礼を行わず 己の利を求めず

憤らず 人の悪を思わず

不義を喜ばずして

真理の喜ぶところを喜び

おおよそ 事忍び

おおよそ 事信じ

おおよそ 事望み

おおよそ 事耐うるなり

愛はいつまでも変ることなし」

そしてテープレコーダーの速いテンポに併せてラジオ体操と点呼。

この朝礼風景の紹介でお判りのように、当社はキリスト教の愛の精神を企業存立の基盤に据える会社である。宗教の如何を問わず、己の如く他を愛する愛の精神にすべての源泉を求め、人生の生きる意義と喜びとを標榜する企業集団は、規模の大小にかかわらず出色であると自負している。問題は愛の本質を如何にこの世に具現するかである。

社名の謂れをよく尋ねられる。カナンと云う名は旧約聖書で、乳と蜜のあふれる土地と表現されている。現代では理想郷と言い換えてもいい。即ち心と物の豊饒と調和の世界を聖書は表象している。それは観念論のユートピアでなく、聖書に登場する人々が現実に目指し歴史の中に獲得したカナンである。その理想のカナン

\* 村上 宏 (Hiroshi MURAKAMI), カナン精機株式会社, 代表取締役

を我社も指向する。一握の凡夫の集まりである小さな企業が、至難であろうが希有の理想を目標として日々の業務に邁進している。

### 2. 仕事の紹介

当社は電子工業、電気・機械用精密小物部品を製造している。精密切削加工が中心であるが、鋳、鍛造・塑性加工など関連加工も併せて行っている。特にタングステン・モリブデンその他難削材の切削加工、塑性加工には長年の経験と技術の蓄積がある。又、海外からの活発な引合があり、現在米国大手コングリマリット会社に毎月納品している。

以下主な取扱関係品目を例挙すると

マグネトロン関係パーツ

コンピューター関係パーツ

半導体関係パーツ

時計・カメラ等精密機械関係パーツ

その他、まったく方向を逆にした水産物取扱い部門がある。

200カイリ問題が持上る5年以前に、公害による自然界の汚染から淡水魚の養殖事業をはじめ、養殖池の開発と養殖技術の改良の研究を重ね一応の成果をおさめた。その後は“どじょう”の養殖と販売とに集約し、大阪市中央卸売市場や有名専門店に供給している。

又、レジャー関係では釣人口が増加するにつけ釣えさの“ごかい”の養殖も行い、当社の周辺立地を有効に活用している。

### 3. 真心を製品に

当社の部品が供される商品は我国の内外のマーケットに深く浸透しているが、それらマーケットからの要求には限界がなく、止まるところを知らない技術革新の波が打ち寄せ、品質に対する信頼性の向上・コストの低減の努力はおろ

そかにできない。これらに対処するためには諸設備の充実と正確な情報の把握が肝要である。精密部品加工のための機械のNC化は、精度維持と熟練技能者の欠補に顕著な実績を残しつつあるが、あまりに高度な技術と合理化の追求を急ぐあまり人間不在の製品作りに偏りがちである。しかしながら、良い製品、使い易い製品—技術的に優れている—にはそれ自身が保有している機能に加えて、何となく手になじみ心に響く何ものかがなくてはならない。これが真心を製品に具象しようとする当社の基本理念である。これは人間にのみならず領域であり荷せられた使命でもあり、物を作る人達の喜びもここにある。冷たい鉄の一片にあたたかい人間の誠実の温もりを与え、その温もりが使う人達にそのまま伝えられて、初めて金属の一個片ではなく活きた製品として活用されると信じている。

### 3. 今後のあり方

当社が現在まで経験によって築き上げた技術は、幸いなことに理論的にも裏付けされ、社会的には大きな信頼を得ている。これからは従業員1人1人が新しい技術と改善による現状の打

破とに、積極的で素直に取り組む姿勢を持ち、過去の経験的技能と新時代に側した技術体制とを兼合せた方向付けをなさねばならない。

又、心の問題も。昨日と変わらない今日の生活の反復から、ともすれば安逸と情性とに落ちいり、他に目を向けた時にはただむなしい敗北感のみが感じられる時があるが、これを阻止するためには自からが自分にきびしく、他には心のつながりを強く持つと共に、個々人の責任の遂行と他者に対する細かで暖かい心の配慮が、歯車のようにうまくかみ合っこそ理想の一端を垣間見ることになる。

我々生産者のみならず一般社会においても、物と心とは表裏一体であり、どちらが欠けても社会的には欠陥商品を生み出すたと同じ結果を生じるであろう。しかしながら事、我のみの我田引水に陥ることなく、なさねばならない“愛”のわざと己の働の情熱とは消してはならない。

「およそ<sup>まこと</sup>真なること、およそ尊ぶべきこと、およそ正しきこと、およそ<sup>いさぎ</sup>潔よきこと、およそ愛すべきこと、およそ<sup>まこと</sup>聞あること、いかなる徳、いかなる誉にても、これを心にとめよ。」

(聖書)